

土原地区にまつわるストーリー

～激動の幕末・明治期の土原には知られざる数々のドラマがありました～

吉田松陰ゆかりの土原

土原地区には、吉田松陰にゆかりのある場所が点在しています。火の見横町より山中町北詰に至る往還の筋には、松陰が主宰した松下村塾の四天王のひとり入江九一とその弟の野村靖の生家や、松陰のよき理解者であった周布政之助宅がありました。梨木町の筋には松陰が江戸遊学前に一時期寄寓した叔父の玉木家がありました。

また、松陰が入門を試みた柳生新陰流師範・平岡弥三兵衛と高弟の兼常巨人（音楽学者・兼常清佐の祖父）も梨木町の住人でした。兼常は松陰の江戸遊学時、参勤交代に加わり、江戸有備館で松陰に剣術を教えました（「兼常小笠原帰り候故教えて呉れ候人無之候」兄梅太郎への書簡）。

馬場町には塾生のひとり前原一誠（佐世八十郎）の旧宅があり、松陰罪名問題（マップ面参照）では入江九一ら8名が同じ土原で藩重臣の周布政之助宅や井上与四郎（井上勝の父）宅に押し掛けました。また、野山獄で松陰と和歌や俳句を交わした高須久子の生家もありました。



萩の変（萩の乱）

前原一誠（佐世八十郎）は松下村塾で学び、「勇あり智あり、誠実人に過ぐ」と松陰に評された人物です。維新後の越後府判事時代には人々の救済のため、年貢半減令や信濃川分水工事計画で仁政を試みるも中央政府と対立しました。

その後、参議や兵部大輔を歴任後、辞職して土原・馬場町へ帰郷。明治9年（1876）に明治政府首脳の腐敗や地租改正、徴兵令や千島樺太交換条約などの政策を批判して、同じ土原・梨木町の奥平謙輔らと挙兵しましたが敗れました（萩の変）。出雲へ逃げるも捕らえられ、萩で処刑されました。

萩の変後、同じ土原に住む町田梅之進が前原の遺志を継いで西南戦争に呼応し、「町田騒動」を起こしましたが敗れました。



殉国軍義挙の処の石碑（前原一誠旧宅内）

◀萩の変で敗走し出雲宇龍港で捕縛された前原一誠の錦絵（萩博物館蔵）

長州ファイブ・井上勝の家族

土原・浜坊筋には「鉄道の父」と呼ばれる井上勝（野村弥吉）の旧宅跡があります。実父の井上与四郎は藩の要職にあり、松陰も「西洋陣法・海防でその人あり」と評価した人物です。

長兄の壮太郎は松陰の兵学の愛弟子で、松陰と共に江戸に遊学して斎藤弥九郎の練兵館に入門しました。次男の冷泉五郎は剣術を斎藤弥九郎に、銃陣を江川太郎左衛門（英龍）に学びましたが、藩内抗争で山口の諸隊と交渉した帰り道、明木権現原にて俗論派（保守派）に暗殺されました。

三男の弥吉（後の勝）は、「国家の用は重砲の術のみならず、航海の術や殖産興業の法も多々あるべし」と長崎伝習生として航海術を学び、のちに江戸の蕃所調所で、さらに箱館の武田斐三郎の諸術調所で洋学と実技を学びました。

文久3年（1863）5月、他の4人（井上馨、遠藤謹助、山尾庸三、伊藤博文）と共に「生きた器械」となるべく英国に密航留学（彼らは「長州ファイブ」と呼ばれた）し、帰国後は技術官僚として全人生を近代日本のインフラである鉄道建設に捧げました。



井上 勝



長州ファイブ



長井 雅楽

長井雅楽と航海遠略策

長井雅楽は土原山中町の住人で、藩校明倫館きっての秀才と呼ばれ、剣術を平岡弥三兵衛に学びました。安政5年（1858）直目付となり、藩政の中枢に参画しました。文久元年（1861）に公武合体策である「航海遠略策」を藩主に建白し、朝廷と幕府（公と武）の周旋を図りました。藩主毛利敬親の命により周布政之助ら要職はこれを藩是（藩の方針）として、萩藩は一躍中央政界に乗り出し、公武から絶賛されました。

しかし実質的な開国論であるため、尊王攘夷運動の高まりの中で朝廷内からも批判が出て、桂小五郎（木戸孝允）や久坂玄瑞ら尊王攘夷派に弾劾され、文久2年（1862）、藩是は「破約攘夷」に一変し、長井は藩命により心ならずも自刃させられました。

後の歴史の展開を考えると、長井はまさに時勢と政争の犠牲者となったといえます。

※1肖像画・※2図画：春風文庫蔵、※3写真：山口県文書館蔵、その他の肖像・写真：萩博物館蔵

施設のご案内

小川家長屋門

萩町奉行を務めた小川家

小川家初代は毛利元就に仕え、藩政末期の当主・小川厚狭佐は萩藩の大組士（500石）で、慶応元年（1865）から明治元年（1868）までの第88代萩町奉行でした。

この長屋門は、幕末の安政初期の建物で、萩市の有形文化財に指定されています。小川家には、①幼少時代の伊藤博文が風呂焚きなど小川家の下働きに出入りしていた、②小幡高政の娘が小川家に嫁いだ縁もあり、明治になり小幡高政が土族救済事業として勧めた夏みかんの商業栽培に協力して、小川家は母屋を解体した跡地を夏みかん畑にした、などといったエピソードが伝えられています。



土原の情報はここで手に入れよう♪

小川家長屋門の一部を開放して、「土原歴史散策ぶらぶら通り委員会」による土原の情報提供が行われています。

住 所：山口県萩市土原298-1
T E L：0838-26-2933（長屋門珈琲・カフェティカル）
時 間：9：30～18：00
定休日：毎週月曜（祝日を除く）



土原の歴史をもっと深く知りたいなら…

地元住民が再発見した土原の歴史や文化の解説が盛りだくさん！



『土原歴史散策

ーあなたの知らない土原がここにあるー』

発 行：土原歴史散策ぶらぶら通り委員会
（500円で頒布、上記長屋門珈琲にお問合せください）

土原の季節暦



R3.3 現在

土原歴史散策ぶらぶら通り委員会

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）



萩まちあるきマップ

ひじわら

土原地区

おたからマップ



萩城の東方、阿武川の支流松本川の西岸に位置する土原は、石州街道の玄関口として番所が設置され、江戸時代には萩城下の中下級武士の約4分の1が住んだ地区です。

侍屋敷から松本川の川面や唐人山などが望める景色は、『八江萩名所図画』にも描かれており、対岸から望める松やモミの巨木、川船のハトバは、現在も往時をしのばせています。

幕末には、多数の土原出身の志士が国事に奔走し、対幕戦や藩内訌戦で志半ばで非命に倒れ、その遺構が今に残されています。

川沿いの町並みを歩いて、激動の幕末・明治に思いを馳せてみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館 おたからWEBサイトでチェック!!
www.city.hagi.lg.jp/site/machihaku/



Hagi Machijyu Hakubutsukan

萩まちじゅう博物館

土原おたからマップ

弘法寺

弁才天の導きによって、弘法大師の乗った船が漂着したという。江戸時代には、馬市や馬場で賑わっていました。境内に前原一誠の墓があります。

弘法寺のクロマツ

目通り4.25m、高さ35mほかのクロマツ群があります。

比翼塚

悲恋の末に菊ヶ浜に身を投じた、ある御一門の愛妾と小姓を夫婦として埋葬したといわれています。

礎石の残る道

土原地区には武家屋敷の礎石が多く残っています。江戸時代の町割をそのまま生活に活かしてきた、土原ならではの風景です。

武家の町割と筋名

土原の町筋には、居住した武士の名字をそのまま道筋の名前にしたものがあります。
(例) 山中町：この道の北詰に山中市左衛門の屋敷があった
大和小路：道沿いに大和国助の屋敷があった

古地図に描かれた土原

弘法寺のある場所は島になっていて、松本橋辺りは舟渡しになっています。

現在の地形と似ています。武家屋敷が川沿いから増えていきました。



慶安5年(1652)ごろ



安政元年(1854)ごろ

殉難十一烈士

禁門の変と下関戦争の敗北後、長州藩は幕府に謝罪降伏する藩論へ転換し、正義派(改革派)が一掃されて俗論派(保守派)が政権を握りました。第一次長州征討が迫る中、正義派の藩士11人が、俗論派によって処刑されました。

10 井上勝旧宅跡

長州ファイブの一人。英国へ密航留学後、鉄道頭となり「新橋～横浜」間に日本初の鉄道を開通させ、以来東海道線の全線開通など近代交通網を整備し、「鉄道の父」と呼ばれています。

4 前原一誠旧宅

維新後、松陰の教えに従い、仁政を目指して新政府と対立。奥平謙輔らと共に拳兵したが敗れて刑死(萩の変)。墓は弘法寺にあります。

モミの木
樹齢150年以上といわれている

ビューポイント
対岸のハトバや松・モミの巨木が見える川辺の景観が美しい

大谷提灯店
創業100年を迎える萩で唯一の手造り提灯店。萩市庁舎ロビーに町印が描かれた高張り提灯が飾られています。

9 周布政之助旧宅地

藩の財政・兵制・教育などを改革。松陰のよき理解者。長州ファイブを英国へ送り込みました。禁門の変後、藩の政権が交代すると、その責任を取って自刃。

武家町の名残を巡る

- 1 松本大橋
- 2 小川家長屋門
- 3 榑崎弥八郎誕生地
- 4 前原一誠旧宅
- 5 大和国助誕生地
- 6 弘法寺とその境内

おすすめ
トレイル1

扇の芝

扇の芝は、藩主毛利氏の菩提寺である東光寺が建てられる際、京都宇治平等院の「扇の芝」に似せて造られたとされています。ここには「砲術家の小野為八が地雷火の訓練を行った」「高杉晋作が西洋銃を使った戦い方を試した」といった逸話が残されています。

1 松本大橋と松本小橋

藩主の東光寺参詣のために造られた橋。幕府から建設許可を得るために、冬の間だけの仮橋に見せかけるように架けられました。石州街道から萩城下への出入りに当たるので、松本小橋の西詰に番所を設置していました。現在の橋は昭和31年(1956)に架けられたものです。

松陰罪名にかかる騒動

吉田松陰は安政5年(1858)7月、幕府が天皇の許可なく日米修好通商条約に調印したことを知り、老中間部詮勝の暗殺計画を企てます。これを危険視した藩政府は「學術純ならず、人心を動揺す」という理由で松陰に自宅監禁の命を下し、野山獄に再投獄しました。このことに反発した前原一誠(佐世八十郎)、入江九一ら塾生8人が、藩の重臣である周布政之助や井上四郎宅に押しかけ面会を求めましたが、周布らは応じず、彼らも城下を騒がせた罪により自宅謹慎を命じられました。

幕末の志士や重臣が 住んだ土原を巡る

- 1 松本大橋
- 7 奥平家長屋門
- 8 入江九一・野村靖誕生地
- 9 周布政之助旧宅地
- 10 井上勝旧宅跡
- 11 長井雅楽旧宅地
- 12 白根多助・白根専一旧宅地
- 13 奥平謙輔誕生地
- 14 広沢真臣誕生地
- 15 長防臣民合議書印刷所跡

松陰罪名関連

四境戦争関連

四境戦争

慶応2年(1866)、第二次長州征伐により大島口、芸州口、石州口、小倉口の四境で、幕府軍と長州軍の戦いが行われました。幕長戦争とも呼ばれています。

- 凡例
- まあるバス 西回りコース
 - まあるバス 東回りコース
 - まあるバス バス停
 - 食事処
 - 喫茶
 - おみやげ
 - スーパーマーケット
 - 駐車場
 - 有料駐車場
 - 公衆トイレ